

(別記)

7 年度高森町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

町内では、水田面積約 350ha の約 5 割弱が主食用米、残りが転作作物として施設園芸や飼料作物及び不作付け地となっている。

農家の減少や高齢化、担い手不足及び鳥獣害による被害など多くあり、今後も同様の課題が拡大することが予想され不作付け地の増加問題が懸念される。

今後は、集落単位での農地集積を進めながら不作付け地の減少を図っていく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域では冷涼な気候を活かして高収益作物である「なす」、花き等施設野菜が栽培されており、農業者毎に作付体系に適合した品目の導入を図っていく

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の 350ha の水田について、地域適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、野菜を転換作物の中心に位置付け、作物生産の維持拡大を図ることとする。また、飼料作物については、作付けを担い手に集約すると共に、二毛作の作付及び耕畜連携（資源循環の取組）の取組を推進する。

施設園芸が行われているような今後も水稻作に活用される見込みがない水田について点検を行う。高森町は、畑地化には取り組まない。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を推進するため、地域に提示された生産目安を利用した作付け推進、並びに平地と山間部での高低差 300m といった条件下における品種の選定や新品種への取組に努め、農業経営の安定化を推進する。

(2) 備蓄米

現在、取り組む計画は無し

(3) 非主食用米

ア 飼飼料用米 現在、取り組む計画は無し

イ 米粉用米 現在、取り組む計画は無し

ウ 新市場開拓用米 現在、取り組む計画は無し

エ WCS 用稲

専用品種での取組や先進地視察研修等を行っていく

オ 加工用米

他の戦略作物との比較をした上で推進を図る

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆については販売目的での作付けが無く、取り組む場合は新たな投資を余儀なくされるのが実情である。

麦・飼料作物については、産地交付金を活用して、二毛作の作付けや耕畜連携の推進を図ることで、作付面積を拡大していく

(5) そば、なたね

そばについては、排水対策を徹底することにより、産地交付金を活用し生産拡大を図る事により農家経営の安定化や自給率の向上に繋げる。

(6) 地力増進作物

他の戦略作物との比較をした上で推進を図る。

(7) 高収益作物

産地交付金を活用し、野菜や花き類等の更なる生産拡大を図り農業経営の安定化や自給率向上に繋げ、今後の面積維持・拡大を図る。また、なす（ひごむらさき）を地域の重点品目に位置付け、作付を支援することで面積拡大を図って行く

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	171		171		171	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲	25.3		24		23	
加工用米						
麦	2.5		2.5		3.4	
大豆						
飼料作物	14.6	6.9	15	7	24	8
・子実用とうもろこし						
そば	1.7	2.4	2	2.5	1.2	1
なたね						
地力増進作物						
高収益作物 合計	7.7		7.7		7.7	
・野菜	4.3		4.3		4.4	
・花き・花木	3.3		3.3		3.3	
・果樹	0.1		0.1		0.1	
・その他の高収益作物						
その他						
・〇〇						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	なす（ひごむらさき）	重点品目の作付助成 （基幹）	作付面積（ha）の拡大	0.5	0.5
2	麦、飼料作物	麦、飼料作物担い手等 加算（二毛作）	取組面積（ha）の拡大	2.7	10
3	麦、飼料作物	麦、飼料作物二毛作加 算（二毛作）	取組面積（ha）の拡大	6.9	12
4	飼料作物、WCS用稲	耕畜連携の取組（資源 循環・水田放牧）（基 幹）	取組面積（ha）の拡大	8.2	15
5	露地野菜	地域振興作物への助成 （基幹）	作付面積（ha）の拡大	0.3	1
6	施設栽培 野菜、花き	ハウス施設作物への助 成 （基幹）	作付面積（ha）の拡大	7.6	10

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名: 熊本県

協議会名: 高森町地域農業再生協議会

整理番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	重点品目の作付助成(基幹)	1	16,000	なす(ひごむらさき)	作付面積に応じて支援
2	麦・飼料作物担い手等加算(二毛作)	2	13,000	麦・飼料作物	担い手による二毛作での作付面積に応じて支援
3	麦・飼料作物二毛作加算(二毛作)	2	13,000	麦・飼料作物	二毛作での作付面積に応じて支援
4	耕畜連携の取組(資源循環・水田放牧) (基幹)	3	12,000	飼料作物・WCS用稲	飼料生産水田への堆肥散布(資源循環)及び水田放牧の取組面積に応じて支援
5	地域振興作物への助成(基幹)	1	14,000	露地野菜	作付面積に応じて支援
6	ハウス施設作物への助成(基幹)	1	12,000	施設野菜・花き	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。